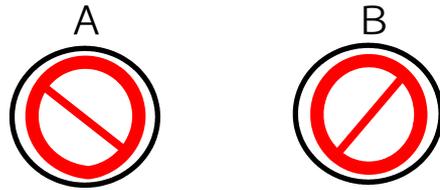


昨今の若手社員の傾向

— 「なるべく早く」の問題 —

さて、質問です。駐車禁止の道路標識は、A、B、どちらでしょう。



この標識は、交通以外でも、様々な「～禁止」標識として使われているケースもあるので、頻繁に目にしている（覚えている）はずですが、どちらか迷った方が多いのではないのでしょうか。単純に「これは、こういうものだ」と、意味や背景を知らないままの丸暗記は、すぐに忘れて、不正確なまま覚えてしまう良い例です。

正解は「A」です。この標識は英語の「NO」を図形化しているのです。したがって、斜め線は「N」のように左上から右下に書かれているのです。この理由を知れば、もう間違ふことはないでしょう。

このような例を挙げたのは「若手社員の育成」に関わることだからです。マーケティングの専門家によると、昨今の若者の傾向として「回り道を避け、結論だけを先に知りたがる」があるそうです。さらに、**手っ取り早く「何者かになりたい」「何かのエキスパートになりたい」**という傾向が強いのです。

また、Netflixなどで、映画を倍速で見た経験がある若者は、50～70%（調査機関により幅がある）もいるそうです。しかも、最初にあらすじ（結論）を調べて、気に入った映画を選んでいるのです（複雑なストーリー、不幸な結末は避ける）。また、SNSでは、文学作品などの要約サイトも人気があるそうです（ファスト教養を求める）。このように**「手っ取り早く情報の結論部分だけを求める」**傾向が強いのが昨今の若者です。

さて、**ビジネスにおいて「なるべく早く」は、効率の面で重要なことです。しかし、物事の本質（目的、背景、意図、理由等々）を理解しない“手っ取り早く”は、問題を生じかねません。**例えば、

1. **相手の話を聞く際、その意図や理由を確認しないで「～と言っていたから」と表面的な判断をする（お客様の真のニーズを理解せず、的外れな提案をする）**
2. **先輩から教育を受ける際、実例を教えて欲しがり、それが唯一の正解だと考えてしまう。だから、実例と異なる場面では応用が効かない**
3. **「失敗は、時間の無駄」と、試行錯誤しないので、考える力が強化されない。**
4. **わかりにくいことを理解する努力を避ける。いつまでたっても周囲に正解を求める依存姿勢が改善されない**

等々、

このような傾向には、ある原因があります。その原因を把握した上での教育が不可欠です。

この「緊急提案」では、これまでも昨今の若手社員の傾向と育成上の問題を提起してきました。弊社では貴社の現状に合わせた「若手社員の戦力化研修シリーズ」（テーマはオリジナルな内容）を実施しております。

興味・関心のある方は下記からお問い合わせ下さい。

> お問い合わせはこちら

